Berlinale TALENTS TOKYO

「タレンツ・トーキョー2026」プレイベント修了生作品 特別上映会

2026.11.6Fri 7Sat 8Sun







2026.11.6Fri 7Sat 8Sun 会場：東京都写真美術館 1Fホール

主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京／タレンツ・トーキョー実行委員会
提携：ベルリン国際映画祭（ベルリナーレ・タレンツ）　協力：ゲーテ・インスティトゥート東京

入場料：無料 事前予約制

◆定員に達し次第、受付終了となります
◆全席指定・各回入替制
チケットはQRコード先のリンクからご予約ください

PROGRAM SCHEDULE

2026.11.6Fri

16:30- ［115min］
沈黙の自叙伝
上映後監督・プロデューサーQ&Aあり

2026.11.7Sat

10:20- ［90min］
春行
上映後監督Q&Aあり

12:45- ［115min］
沈黙の自叙伝
上映後監督・プロデューサーQ&Aあり

15:35- ［102min］
ひとりで死ぬのはイヤだから
上映後監督・プロデューサーQ&Aあり

2026.11.8Sun

10:30- ［90min］
クロストーク「作ること、映すこと」
「タレンツ・トーキョー」×「恵比寿映像祭」による特別企画
小田 香（映画監督）　曽我 満寿美（プロデューサー）
MC：清水 裕（東京国際映画祭プログラマー）

13:00- ［102min］
ひとりで死ぬのはイヤだから
上映後監督・プロデューサーQ&Aあり

15:50- ［90min］
春行
上映後監督Q&Aあり

PROGRAM

ひとりで死ぬのはイヤだから（Diamonds in the Sand）

102min
［英語・日本語字幕あり］

–2027年1月日本公開–

第27回ウディネ・ファーイースト映画祭ホワイト・マルベリー賞（最優秀新人監督賞）受賞

2024年／102分／日本・マレーシア・フィリピン／日本語・英語・タガログ語／カラー／1:1.85／5.1ch
配給：Spanic Films　宣伝：Playtime

東京でひとり暮らしを送るサラリーマンのヨージは、唯一気にかけてくれていた母を亡くし、天涯孤独となる。そんな折、近隣で起きた孤独死を目の当たりにし、「こんなふうに孤独に死にたくない」と強く思う。そして母の最期を看取ったフィリピン人看護師ミネルヴァの「フィリピンには孤独がない」という言葉を胸に、単身マニラへと向かうのだった…。

監督：ジャヌス・ヴィクトリア（Janus Victoria）

タレンツ・トーキョー2013修了生



フィリピン・マニラを拠点とする脚本家・監督。アジアン・フィルム・アカデミー（AFA）およびタレンツ・トーキョー2013を修了。これまでに短編7作品を監督し、『ひとりで死ぬのはイヤだから（Diamonds in the Sand）』（2024）が長編デビュー作となる。同作は2013年のタレンツ・トーキョー・アワードを受賞した企画で、2025年にはウディネ・ファーイースト映画祭でホワイト・マルベリー賞を受賞した。

春行（A Journey in Spring）

90min
［英語・日本語字幕あり］

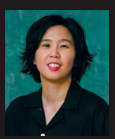
サン・セバスティアン国際映画祭2023 最優秀監督賞受賞

2023年／90分／台湾／台湾語（閩南語）、中国語／1.66:1／カラー／5.1ch
インターナショナルセールス：Diversion　字幕協力：大阪アジアン映画祭

足の悪い老人、キム・ホックは、長年妻に頼って生きてきた。夫婦は台北郊外の古い家に暮らしている。妻が突然亡くなると、キム・ホックはその事実を隠し、一見平穏な生活を送り続ける。しかし、長年疎遠だった息子とそのパートナーが突然現れたことで、彼は妻の死と向き合わざるを得なくなる。全編、スーパー16ミリで撮影されたという独特な画調と、静かで緩やかなリズムが心を打つ。

監督：ワン・ピンウェン（Wang Ping-Wen）

タレンツ・トーキョー2019修了生



1987年、台湾・台北生まれ。国立政治大学ジャーナリズム学科を卒業後、ロヨラ・メリマウント大学にて映画・テレビ制作の美術修士（MFA）を取得。主な監督短編映画に『Between Us』（2014）、『Labyrinth』（2016）、『軍犬（Military Dog）』（2019）などがある。「Produire au Sud Taipei Workshop 2018」修了生。長編デビュー作となる『春行（A Journey in Spring）』（2023）で、第71回サン・セバスティアン国際映画祭 シルバー・シェル賞（最優秀監督賞）を受賞した。

沈黙の自叙伝（Autobiography）

115min
［日本語字幕あり］

第79回 ヴェネツィア国際映画祭　国際批評家連盟賞受賞
第23回 東京フィルメックス　コンペティション部門最優秀作品賞受賞

2022年／115分／インドネシア、ポーランド、ドイツ、シンガポール、フランス、フィリピン、カタール／インドネシア語／2.35:1／カラー／5.1
配給宣伝：株式会社ムーリンプロダクション

父は服役中、兄は海外へ出稼ぎに出た青年ラキブは、代々一族が仕えてきた退役将軍プルナの屋敷で働き始める。父親のように親身に接するプルナのもと、アシスタントとして天職を見いだすラキブ。しかし、プルナが地元の首長選挙に立候補したことで、二人の運命は大きく動き始める。

監督：マクバル・ムバラク（Makbul Mubarak）

タレンツ・トーキョー2025修了生



インドネシア出身の映画監督・脚本家。5本の短編映画を手がけたのち、2022年に『沈黙の自叙伝』で長編監督デビュー。第79回ヴェネツィア国際映画祭で世界初上映され、国際映画批評家連盟賞（FIPRESCI賞）を受賞。第23回東京フィルメックスでもグランプリを受賞したほか、第95回アカデミー賞国際長編映画賞部門のインドネシア代表作品に選出された。現在は長編第2作となる『WATCH IT BURN（原題）』を準備中（「タレンツ・トーキョー2025」参加企画）。

クロストーク「作ること、映すこと」

90min

「タレンツ・トーキョー」×「恵比寿映像祭」による特別企画

「タレンツ・トーキョー」での学びが現在の創作活動にどう結びついているのか。監督とプロデューサー、それぞれの視点から映画制作の舞台裏や創作の難しさに迫ります。さらに、小田氏が参加した東京都写真美術館で開催されている恵比寿映像祭でのコミッション・プロジェクトの取り組みを紹介し、「映像制作」が持つ意味や、作品が観客へ届く形について、多角的な視点からお話しいただきます。

小田 香（映画監督/タレンツ・トーキョー2015修了生）　1987年大阪府生まれ。フィルムメーカー/アーティスト。代表作に『鉱 ARAGANE』『セノーテ』『Underground　アンダーグラウンド』など。恵比寿映像祭2025のコミッション・プロジェクトにて新作《母との記録「働く手」》を発表。

曽我 満寿美（プロデューサー/タレンツ・トーキョー2011修了生）　Spanic Films代表。フィリピン映画祭主催。アジアとの国際共同製作をプロデュース・配給。日比合作『この場所』等を手がける。

MC：清水 裕（東京国際映画祭プログラマー）　映画上映者。ミニシアター勤務を経て、2017-2020年恵比寿映像祭映画担当。2022-2024年ロッテルダム国際映画祭。2024年より東京国際映画祭の非アジア圏作品を担当。

About Talents Tokyo

「タレンツ・トーキョー」は、ベルリン国際映画祭の一環として開催される人材育成プログラム「ベルリナーレ・タレンツ」の国際展開である「タレンツ・インターナショナル」のアジア版です。

東京では「タレンツ・トーキョー」として、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、タレンツ・トーキョー実行委員会の共催により、映像分野において「次世代の巨匠」となる可能性を秘めた、アジアの「才能（＝Talents、タレンツ）」を育成することを目的として実施されています。これまでに、多くの修了生たちがベルリン、カンヌ、ヴェネツィア等の国際映画祭で受賞・ノミネートされるなど、世界を舞台に活躍しています。

https://talents-tokyo.jp　問い合わせ先：talents@talents-tokyo.jp

TALENTS TOKYO　東京都　ARTS COUNCIL TOKYO

入場料：無料　事前予約制
◆定員に達し次第、受付終了となります
◆全席指定・各回入替制
チケットはQRコード先のリンクからご予約ください

会場：東京都写真美術館 1Fホール

［アクセス］JR恵比寿駅東口より徒歩約7分
東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分

